

あいらの 小田原まさる



後援会だより

R8.4 Vol.1

始良市議会会派“市民くらぶ”所属



議会活動の「報告」

■この街で五十年

四人の子育てと市役所二十五年勤務を通じ、地域の暮らしと行政の現場を見てきました。

通学路、地域の道路、日々の生活の中で、「安全は当たり前ではない」という現実を実感してきました。

■現場の実感

過重労働の現場を経験した中で、無駄な業務や非効率な仕組みが現場の負担となり、結果として市民サービスにも影響する構造を見てきました。こうした経験から、「限られた財源をどこに使うべきか」という視点を重視してきました。

■議会での取り組み

- ・無駄な支出の見直し
- ・箱モノ事業の将来負担の検証
- ・道路整備の必要性の提案

道路は単なるインフラではなく、生活と安全を支える基盤です。

議会では、通学路や生活道路の実態を踏まえ、優先的に整備すべきであることを繰り返し提案してきました。

その結果、令和六年度から道路予算の倍増につながりました。

■議会での主なやり取り

【質問】

なぜ道路整備の予算が十分に確保されていないのか

【答弁】

財政状況を踏まえ優先順位を検討

【指摘】

通学路など安全に直結する整備は優先すべきと提案しました。

【質問】

財政調整基金残高の増加は実態を反映しているのか

【答弁】

財源確保の一環として対応

【指摘】

借り換えという見せかけの増加であり丁寧な説明が必要と指摘しました。

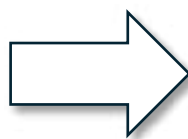
■通学路の安全対策

小学校周辺をはじめ、生活道路・通学路の安全対策が進められました。

現在も、舗装の改善、横断歩道の明確化など、市民の安心につながる整備が行われています。



始良小正門前の通学路(改良前)



改良され、通学路の安全性が向上